

小児ではなくてこどもである。本特集のテーマに使われた「こども」という言葉には、医学モデルに集約される対象としての小児(対概念は成人や老人であろうか)のもつイメージの範囲を大きく超えていると思われる。いみじくも療育という語があるように、社会と教育の視点なしには、こどものリハビリテーションあるいは理学療法は齟齬をきたすのである。

この意味で本特集に取り上げられたそれぞれの論文は十分にこの視座を含むものとなっている。小池論文では、特に早期発見、早期療育の重要性と関連施策および地域における療育システムの概要と意義が述べられている。障害の多様化重複化を背景としてさらに進んだ療育システムについての提言が、医療モデルから生活モデルへの転換を要請しているとの指摘はよく理解できる。原論文では、脳性麻痺児の理学療法において最も注意すべき点として他動的運動に加え自発運動を準備することの重要性が強調されている。押木論文では、知的障害児の理学療法において発達過程に応じたステップが紹介されておりチームアプローチのもとでの方略が述べられている。榎・他論文では、小児整形外科的疾患の理学療法に関して特に側弯症に対するアプローチを詳細に述べていただいた。上杉論文では、小児神経疾患のうち先天性筋強直性ジストロフィー症例の症例を取り上げその理学療法の実践について述べていただいた。長期にわたる治療アプローチとその記録は多くの示唆をもたらすだろう。

入門講座の理学療法ワンポイントアドバイスは「呼吸障害」である。疾病の経過と時期に応じた急性期から慢性期における呼吸障害に対する理学療法について平易に解説されている。講座では医療制度改革と理学療法の第2回として、現行の保健医療制度の問題点について詳細に論じられている。リハビリテーション医療にかかわる医療費は診療行為の2%でありこれまで適正化の対象とされることがなかったが、今回から大幅に改定されていることが指摘されている。今回の改定は理学療法士の雇用問題にも絡んで大きな話題となっており、必読である。

「理学療法の現場から」で石黒先生が、この15年間のなかで持ちつづけてきた糖尿病領域での「理学療法士」の認知という夢が、現実のものとなっていると述べられているのは、水が石を穿つ如くであり、敬服に値する。この他たくさん紹介したい記事があるが紙幅の都合で割愛する。最後に「とびら」で金谷先生が「たとえ痴呆や障害があっても長生きをしてみたい・・・それは高齢者をこころから愛しいと感じるようになってから」と述べられているのもまた時間の造った果実であろう。翻っていまこの瞬間、命を失う脅威にさらされている戦争の現場では「長生き」は叶わぬ夢かもしれない。

(網元 和)

●編集顧問●

上 田 敏
五味 重 春
津 山 直 一
福 屋 靖 子
横 山 巖

(五十音順、以下同じ)

●編集委員●

網 本 和
安 藤 徳 彦
内 山 靖
大 川 弥 生
高 橋 正 明
鶴 見 隆 正
奈 良 勲
吉 尾 雅 春

●編集同人●

伊 藤 俊 一
伊 橋 光 二
今 川 忠 男
上 田 陽 之
大 峯 三 郎
岡 西 哲 夫
岡 本 慎 哉
菊 地 延 子
木 山 喬 博
工 藤 俊 輔
佐々木 伸 一
佐 藤 秀 一
高 口 光 子
高 田 京 子
寺 山 久美子
富 樫 誠 二
富 田 昌 夫
長 尾 哲 男
長 澤 弘 子
永 富 史 基
中 村 春 隆
橋 出 茂 治
濱 酒 伸 彦
備 酒 伸 彦
福 田 恵美子
星 文 彦
前 田 哲 男
牧 田 光 代
丸 田 和 夫
丸 山 仁 司
宮 本 省 三
諸 橋 勇

理学療法ジャーナル

(第37巻 第5号)

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

2003年5月15日発行(毎月1回15日発行)

☎ 113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3

電話 本誌編集室直通(03)3817-5703

(担当:平岡・山崎)

定価(本体 1,700 円+税)

販売部直通(03)3817-5659・5660

広告室直通(03)3817-5696

{ 2003 年年ぎめ予約購読料 20,880 円
(配送料弊社負担) }

ファクシミリ(03)3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

印刷所 三 報 社 印 刷(株) ☎(03)3637-0005

広告申込所 (株)医薬広告社 ☎(03)3814-1971

E-mail: ptj@igaku-shoin. co. jp

Web http://www. igaku-shoin. co. jp/mag/ptj/

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2003, Printed in Japan

・ 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有しています。

・ JCLS <(株)日本著作出版権管理システム委託出版物>

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の許諾を得てください。